

令和4年度調査研究事業「ネットワークを活用した家庭との連携に関する研究～1人1台端末の活用を通して～」について

カリキュラム開発部メディア教育担当

私たちは、令和2年度から「ネットワークを活用した家庭との連携に関する研究～1人1台端末の活用を通して～」を研究主題において調査研究に取り組んでいる。昨年度は、県内5教育事務所の協力の下、各市町村で先進的にICT活用を取り入れている学校に対する現地調査と千葉市を除く53市町村教育委員会に対するアンケート調査を中心に取り組んできた。その中で「各地域、各学校で試行錯誤して取り組んだ結果、1人1台端末の授業等での活用場面が増えてきている。」ということがわかり、そして「さらなる個別最適な学びや協働的な学びを実現するためには、学校での授業と家庭学習の連携も重視する必要がある。」という結論を得た。

そこで、今年度の活動として「個別最適な学びと協働的な学びを実現するために、授業実践と家庭学習における1人1台端末の効果的な活用方法や指導方法を明らかにする」、すなわち「授業と家庭学習をシームレスにつなぐ学びの実現」を目的に具体的な事例検証に取り組んでいくことを計画している。

事例検証を行っていくにあたり、今年度は講師や助言者を招き、また、横芝光町教育委員会の御理解をいただき、町立の五つの小学校と二つの中学校（二つの学校区）に協力していただくことになった。事例検証の内容としては、1人1台端末導入初期からのスタートをイメージし、次のように取り組んでいくことを想定している。

1 まずは慣れること

- 授業以外（先生方は校務）でも、端末に触れることで習慣化を目指す。
- 意見共有や協働学習の場面で、比較的簡単な活用から実践してみる。
- 児童生徒の発達段階や端末活用の段階に合わせた情報モラル教育を実践する。

2 授業実践での活用を深める

- クラウド（ネットワーク）活用を意識した取組の工夫をする。

3 授業と家庭学習のつながりを意識した活用（本調査研究の目的）

- 授業での活動と家庭学習とをつなぐ活用方法を模索する。
- 様々な通信環境を考慮した活用実践例を見出す。

4 その他

- 家庭での活用実践について保護者に理解していただくための最適な情報提供手段を検討する。
- 研究協力校に対して、要望に応じてオンラインや訪問による相談、研修を実施するなど柔軟な対応をする。
- 1人1台端末の活用段階を示すためのスモールステップを作成する。

次の図1は、県総合教育センターとして作成した令和4年度の調査研究事業実施計画である。これをもとに横芝光町の小中学校と協力し、より現実的なものへと修正を加えながら取り組んでいくことを考えている。今後とも進捗状況について、本誌に掲載していく。

ケーススタディ ～Change the world～

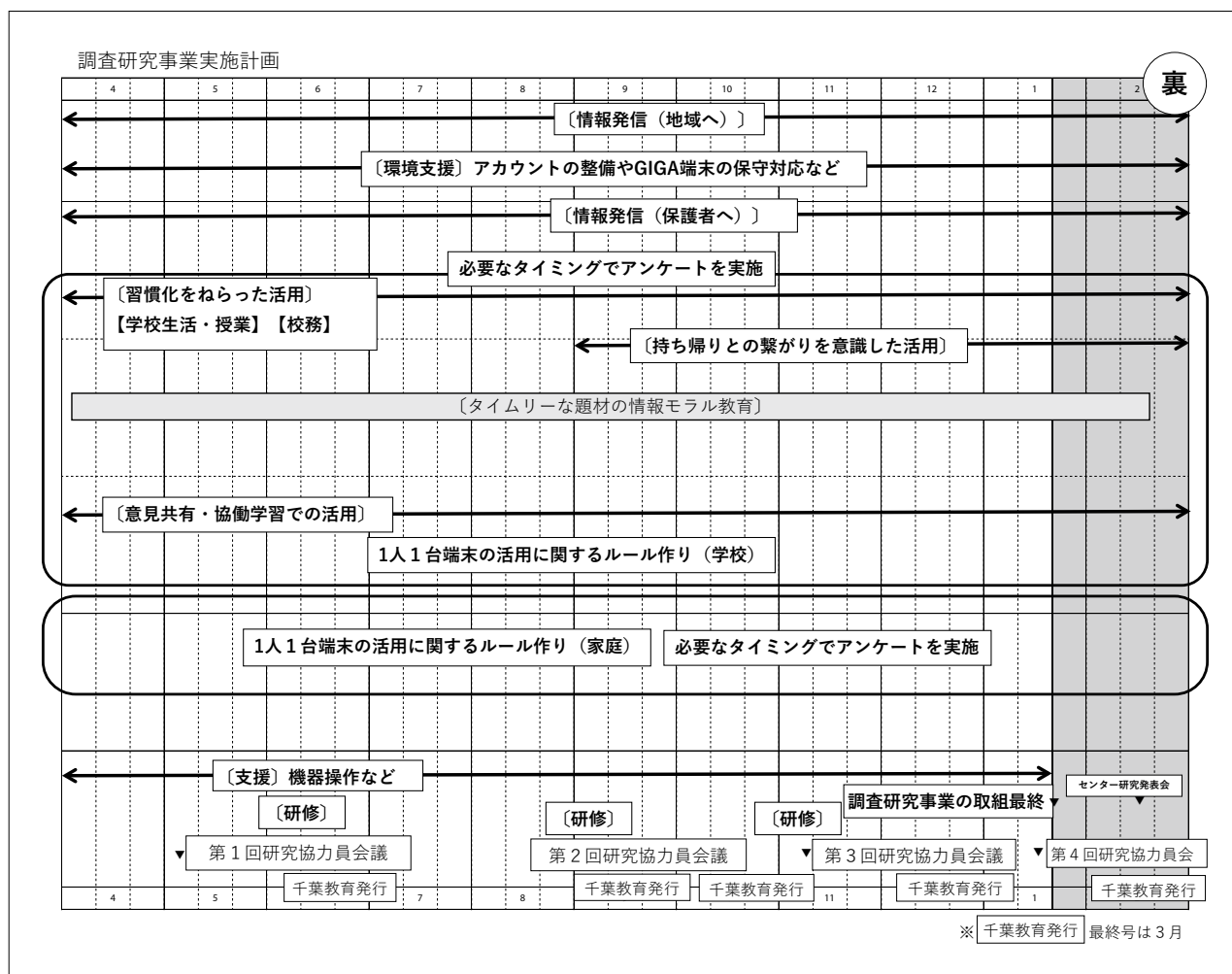


図1

「4 その他」の最後に示した「1人1台端末の活用段階を示すためのスモールステップ」についても、「基本操作」「授業など校内での取組」「持ち帰りでの活動」に場面を分けて、各学校の実態に合わせた取組を行った

上で、児童生徒の発達段階に合わせたスモールステップを作成していただくことを検討している。スモールステップ作成の進捗状況についても、本誌を通してお伝えしていきたい。

◎◎ 講師派遣のお知らせ ◎◎ 県内の先生方を全力でサポートします！

- ・GIGA 端末・クラウドを活用して協働学習をできるようにしたい
 - ・プログラミング教育をさらに進めたい
 - ・情報モラル教育を推進したい
- 等

教育の情報化に関する内容についてのアドバイスや教職員対象の研修講師を承ります。

詳しくは、県総セ Web > 学校支援／授業支援 > 情報・ICT 教育 > 学校支援をご覧ください。

